

第23期考古学セミナー（2021年度）

—発掘調査でわかった山形県内の近世城郭と出土遺物—

第2回講座

講義③・④

山形城

—発掘調査と史資料による総合調査—

山形市

齋藤 仁 氏

令和3年10月3日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

令和3年10月3日
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

山形城

—発掘調査と史資料による総合調査—

山形市
齋藤 仁

1

はじめに

—山形城の概要—

2

山形城の構造

- ・本丸、二ノ丸、三ノ丸が同心円状に廻る。
- ・本丸、二ノ丸と三ノ丸の一部が国指定史跡
- ・三ノ丸の規模は南北2090m 東西1580m
- ・別名「霞ヶ城」「吉字城」
- ・現在、二ノ丸は「霞城公園」として開放されている。



3

山形城空撮写真(西から東を望む)



4

山形城の歴史1 (中世～江戸前期)

| 和暦 | 西暦 | 出来事 | 城郭史 |
|-------|------|-------------------|-----------|
| 延文元年 | 1356 | 斯波兼頼が羽州管領として山形に入部 | |
| 延文2年 | 1357 | | 山形城創建 |
| 天正2年 | 1574 | 最上義光、父義守との抗争に勝利 | |
| 天正18年 | 1590 | 豊臣秀吉の奥羽仕置 | |
| 文禄2年 | 1593 | 最上義光による築城を指示する書状 | 本丸・二ノ丸の形成 |
| 慶長5年 | 1600 | 関ヶ原の合戦 | |
| 慶長7年 | 1602 | 57万石の大名となる | |
| 元和8年 | 1622 | 最上氏改易 | |
| 元和8年 | 1622 | 鳥居氏の入部 | 鳥居氏らによる改修 |

中世最上期

近世最上期

豊臣政権期

江戸初頭

江戸前期

5

山形城の歴史2(近世最上期～江戸後期)

| 西暦 | 藩主 | 石高 | 前の領地 |
|------|-----------|--------|---|
| 1600 | 斯波兼頼 | 宮城から入部 | 子孫は最上氏を名乗り、川幸康に味方した功績で庄内や秋田県の申判郡を与えられた。 |
| 1602 | 最上義光 | 五十七万石 | |
| 1605 | 最上家親 | | |
| 1612 | 最上家信(義俊) | | |
| 1616 | 鳥居忠政 | 二十一万石 | |
| 1618 | 鳥居忠恒 | | |
| 1622 | 保科正之 | 二十万石 | |
| 1633 | 幕府領 | | |
| 1643 | 奥平昌能 | 九万石 | |
| 1644 | 奥平昌章 | | |
| 1648 | 奥平忠弘 | 十五万石 | |
| 1650 | 結城(松平直基) | 十五万石 | |
| 1658 | 幕府領 | | |
| 1665 | 奥平昌能 | | |
| 1685 | 奥平昌章 | | |
| 1686 | 堀田正仲 | 一〇万石 | |
| 1692 | 結城(松平直矩) | 一〇万石 | |
| 1693 | 奥平(松平忠弘) | 一〇万石 | |
| 1700 | 奥平(松平忠雅) | 一〇万石 | |
| 1706 | 堀田正虎 | | |
| 1710 | 堀田正春 | 六万石 | |
| 1716 | 堀田正亮 | 六万石 | |
| 1746 | (大納言)松平東佑 | 六万石 | |
| 1767 | 幕府領 | | |
| 1774 | 秋元涼朝 | | |
| 1780 | 秋元永朝 | | |
| 1781 | 秋元久朝 | 六万石 | |
| 1782 | 秋元志朝 | | |
| 1845 | 水野忠精 | | |
| 1869 | 水野忠弘 | 五万石 | |

江戸後期

江戸中期

江戸前期

近世最上期

- ・三ノ丸新御殿新築
- ・三ノ丸の耕地化

一時的廃城

- ・石高、家臣数減少による三ノ丸の空き地増加
- ・北門、西門の不明門化(あかずの門化)

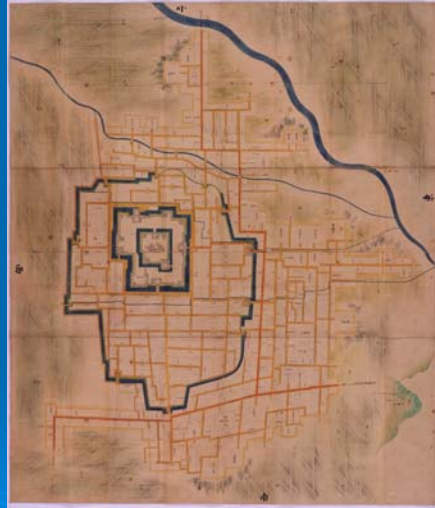
- ・堀、土塁の確定(幕末まで不変)

6

城絵図でみる山形城の変遷

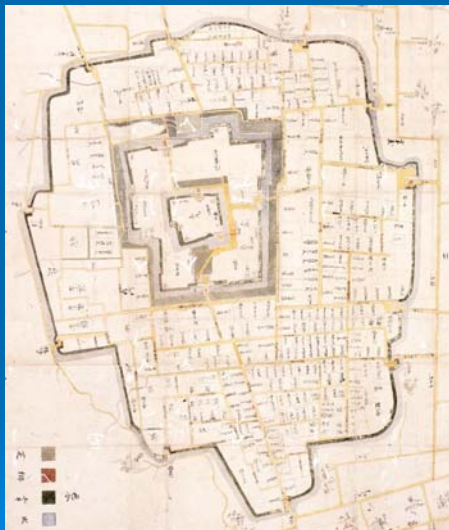


近世最上期(1622年以前)
／県立図書館蔵

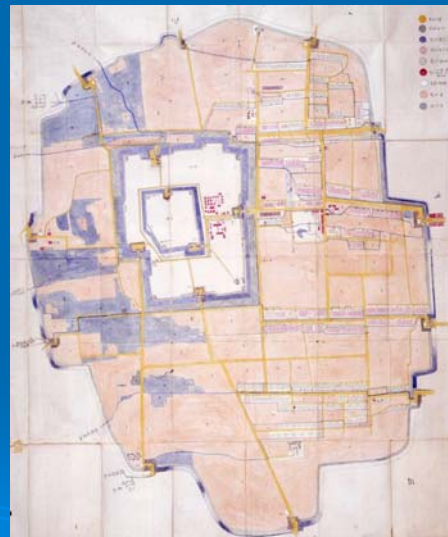


江戸前期
正保城絵図(1644年頃)／国立公文書館蔵

近世中期～後期の山形城絵図



近世中期・(大給)松平氏時代 1746～64年
愛知県西尾市蔵

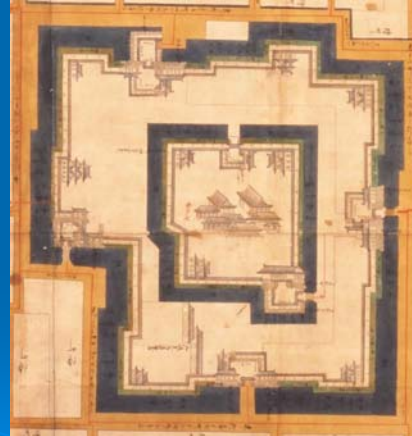


近世後期・水野氏時代 1845～69年
最上義光歴史館寄託

城絵図でみる山形城の変遷 (本丸・二ノ丸)



近世最上期(～1622年)



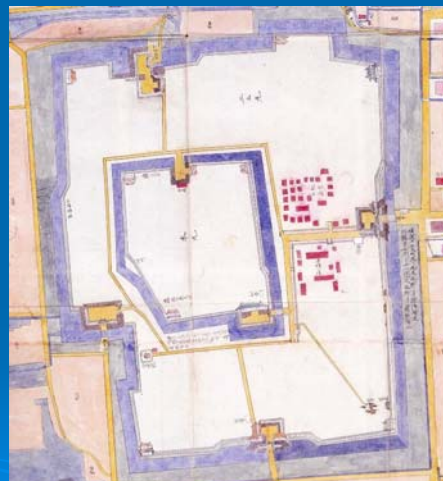
近世前期(結城)松平直基時代
正保城絵図(1644年頃)

9

城絵図でみる山形城の変遷 (本丸・二ノ丸)



近世中期・(大給)松平氏時代 1746～64年
愛知県西尾市蔵



近世後期・水野氏時代 1845～69年
最上義光歴史館寄託

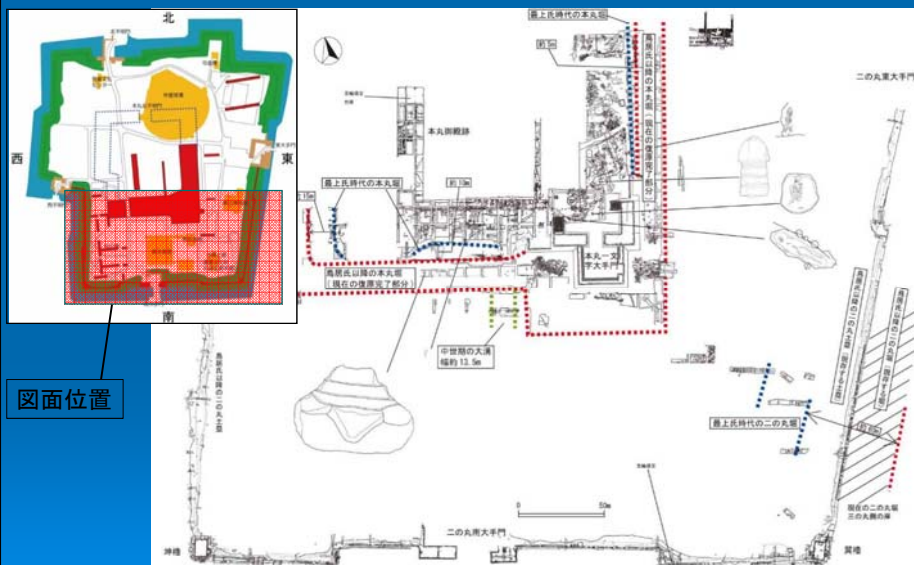
10

I 中世最上期の山形城

斯波兼頼から最上義光以前

11

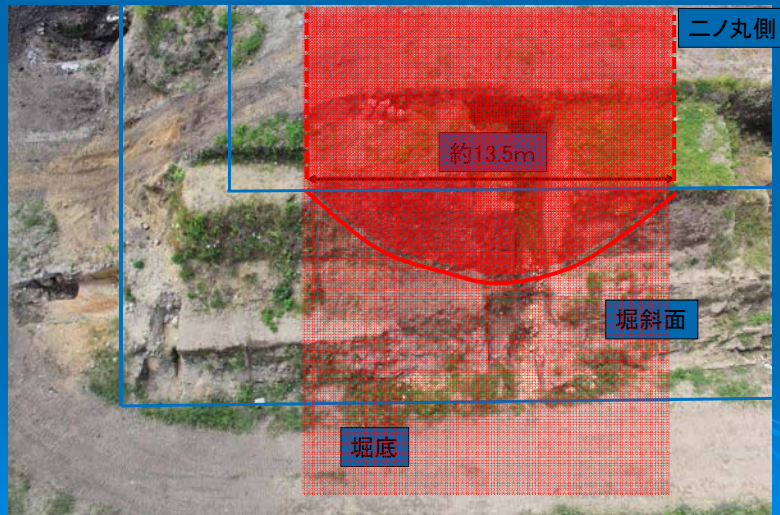
本丸・二の丸調査平面図



12

戦国時代の調査成果

幅13.5mの大溝



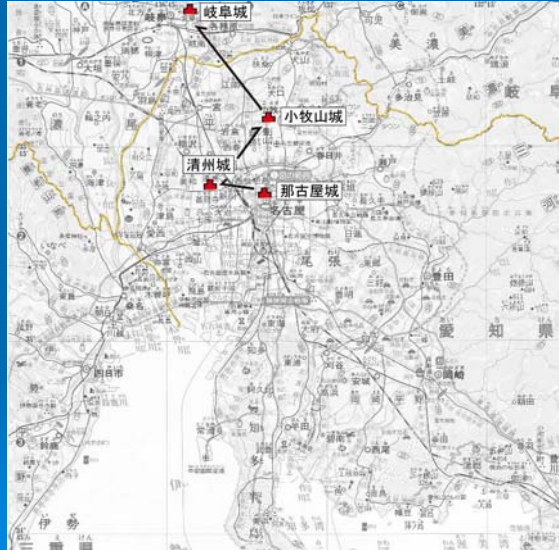
13

霞城公園内で幅13.5mの溝



網かけが溝跡:幅は最大で6.8m

織田信長の城



15

清州城の景観復原



1476年(文明8)に守護所として成立し
1610年(慶長15)に近世名古屋城に移
転するまで、尾張の政治の中心地。

居館 幅10mの堀

武家屋敷
幅3~5mで一辺30
~60mの規格

中世の山形城
10m台の堀を中心、周辺に4m前後
の方形館は守護所と類似する

↓
ただし、出羽国は守護は不設置で出
羽探題が置かれていたので、探題館
ともいべき居館が想定される

16世紀中葉~1586年(天正14)

16

山形城出土の石造物



本丸出土
五輪塔(火輪)

※この当時、本丸・二ノ丸・三ノ丸は形成されていないので、将来、本丸・二ノ丸・三ノ丸が造成される場所で出土したことを示す。



空輪

風輪

火輪

水輪

地輪

三ノ丸出土
五輪塔



三ノ丸出土
板碑

17

中世山形城のもう一つの側面



見つかった当時の墓

葬送と政治の
空間が一体化



六道銭

18

Ⅱ 近世最上期の山形城 最上義光の時代

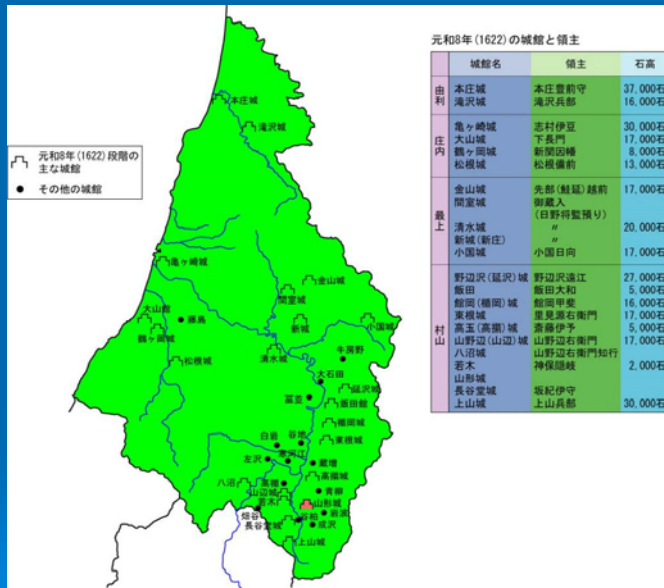
19

近世城郭(織豊城郭)とは

- ・中世の城 「土」から「成」る
 - ・近世の城
礎石建物・高石垣・瓦の導入
 - ただし、県内の近世城郭にはこれらが無い城郭もある
 - 言い換えれば、近世的支配に対応した城郭に転換
- ◇山形城の近世への転換過程をみる

20

1602年 以降の 最上氏の 領国



21

近世最上期の井戸



中世後期の五輪塔が壊されて、近世初頭の石組井戸の転用されている
→中世後期の街づくりを踏襲していない。中世後期と近世最上期は断絶がある

22

最上氏時代
本丸御殿

礎石建物跡 焼失建物



雨落ち施設転用瓦
拡大写真



RA6

23

本丸中央部の石組み溝

膨大な被熱した瓦



24

本丸出土の瓦



金箔軒平瓦



オモダカ紋金箔鬼瓦



金箔軒丸瓦



鯪瓦(頭部)



三花卉紋金箔鬼瓦

25

本丸関連の記事

○文禄二年(一五九三)最上義光書状(伊達家文書)

(内館) (堀 普請)

一、其元うちたてのほりふしん、いかゝ候哉、一度二ハマ
かりなるましく候、一方つゝも、きへめゝつつかまつり候
ハ、よく候はんかと存候、ほりハ地のひき候かたよりほ
り候て、みつをおとしゝ、地あかりのかたへほり候へハよ
く候

(内館)

(女房)

(候脱力)

一、うちたてへ、ねうほう衆一兩人もおきよし申し候、
尤可然候、

○慶長四(一五九九)〜七年(一六〇二)? 最上義光

書状(秋田藩家蔵文書)

山形二兼日雜意候て、其上本丸二火事出来候処二即時二
馳着、色々我等之留守へ被入精候之由、上山越後所より
具二申越候、去迎者神妙之義共候、以来も左様二候て好
候哉、但又可為如何候上越後・志伊豆・中玄番など、能
々談合候而、諸事其意得肝要候、

26

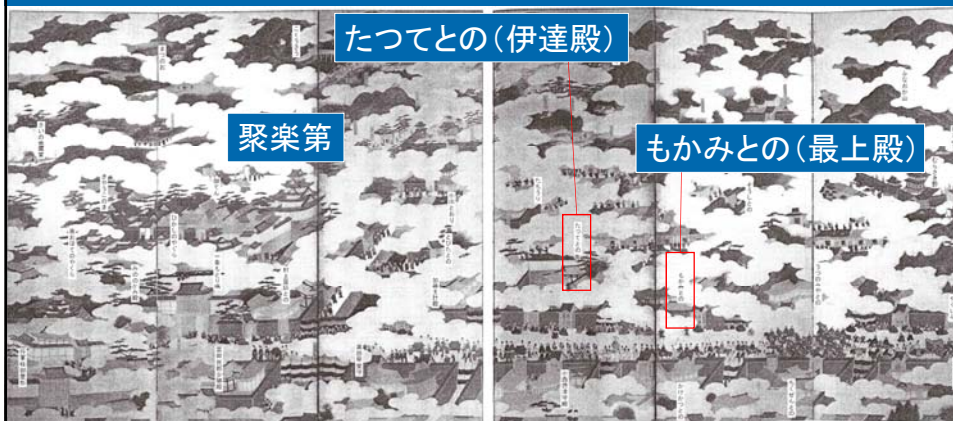
京都 聚楽第城下町遺跡



京都市立新町小学校 出土
瓦当直径17.9cm

- 1587年 聚楽第完成・後陽成天皇行幸
- 1590年 奥羽仕置
- 1591年 京中屋敷替え
最上家京屋敷建設
- 1592年 後陽成天皇行幸
- 1595年 豊臣秀次の失脚により聚楽第及び城下町破却

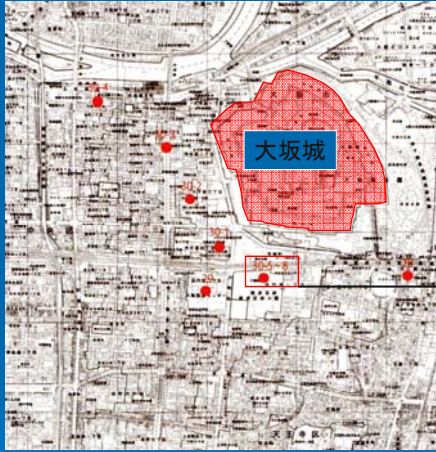
尼崎本洛中洛外図屏風



天正19年(1591)2月29日 鈴木新兵衛書状(伊達家文書)
御屋敷被遣、剩浅野左京大夫様二被仰付、若狭之衆
三千人計にて、唯今御普請専候、屋形様御屋敷之次、
山形殿御屋敷にて候、是ハ纔二三百人之分にて普請
にて候、物之哀成躰二候

伏谷優子2005年「聚楽第と聚楽第行幸が描かれた洛中洛外図屏風について」より一部加筆

大坂城三の丸の山文瓦



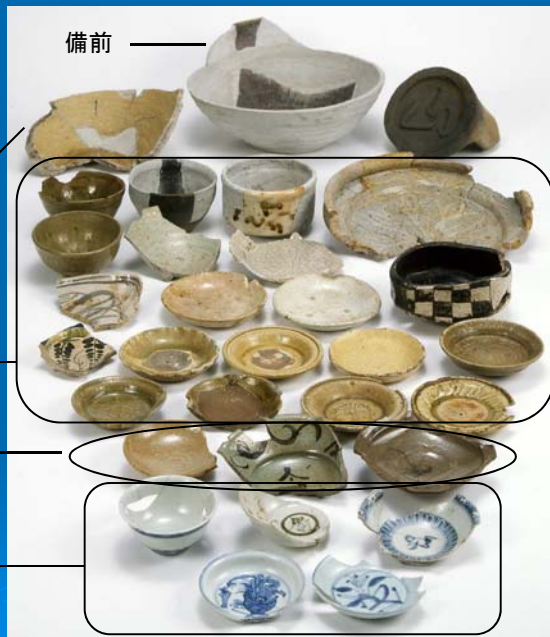
鳥衾



鬼瓦

天正11年(1583) 築城開始【豊臣前期】
 慶長3年(1598) 大坂町中屋敷替え【豊臣後期】
 三の丸大名屋敷の形成

この時代の 出土遺物



備前

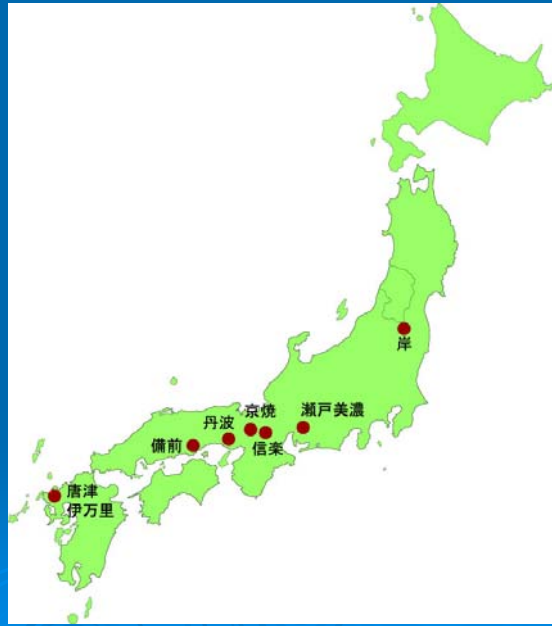
信楽

瀬戸美濃
16世紀末～17世紀初頭

肥前系陶器【唐津】
16世紀末～17世紀初頭

中国産磁器
16世紀末～17世紀初頭

出土遺物 (産地図)



31

縄張り変遷

近世最上氏・青
江戸前期以降・赤

3 山形城



32

Ⅲ 江戸前期: 1620年代～1660年代 ～鳥居氏から奥平松平氏の時代～

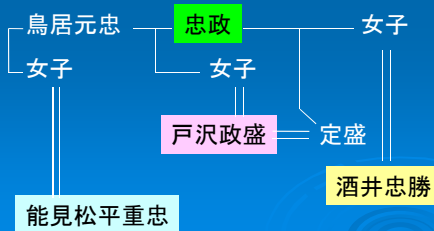
- 1 近世的藩の成立
一国一城の確立、家臣の土地からの切り離し
- 2 軍事的要衝としての認識
山形藩は東国の押さえ
- 3 石高15万石以上の時代

33

鳥居氏の領国

元和8年(1622) 最上氏改易
鳥居氏入部

- ・最上領国の解体
- ・譜代大名(鳥居親族体制)
による外様大名監視体制の構築

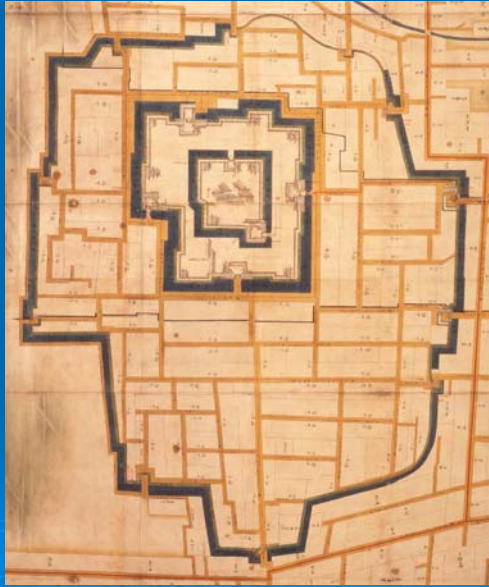


34

山形城の改修



最上氏時代絵図



正保城絵図(1644年頃) 35

近世城郭の歴史的展開

1615年 武家諸法度(一国一城令)
1領国1城郭の原則、西日本の大名に発せられた

1635年 武家諸法度(城郭改修の規制)
新規築城の原則禁止・修理の許可制

→大名居城の確定・城郭縄張りの確定
鳥居氏以後、山形城も同様の規制を受けた

二の丸西門石垣



【隅角部】

・算木積み

直方体の割石を交互に積み上げる

【築石部】

・布目崩し積み

・粗割石を使用

※石材岩種 安山岩大多数を占める

39

角石稜線の精緻な調整(江戸切り)



40

二の丸坤櫓石垣(土塁南西角)



【隅角部】

・やや崩れた算木積み

【築石部】

・布目積み

・粗割石を使用

※石材岩種 安山岩・流紋岩・
デイサイト・花崗岩

41

二ノ丸土塁の 屏風折れ土塀の礎石



不同沈下

旧時期

新时期

42

屏風折れ土塀の構造



【参考】西尾城



愛知県西尾市(復元された二の丸丑寅櫓と土塀)

IV 江戸中期: 1660年代～1750年代 奥平氏から(大給)松平氏の時代

- 1 藩領の縮小
石高10万石前後
- 2 左遷地となる
- 3 城内の荒廃のはじまり

45

山形藩の役割

○奥平氏 寛文八年(一六八八)
「宇都宮城主奥平美作守忠昌死
けるとき、家士等制禁を違反し、
殉死せるやからあるをもて、
(中略)、二万石削られ、新に出
羽山形にて昌能に九万石を賜
ふ」
〔徳川実紀〕

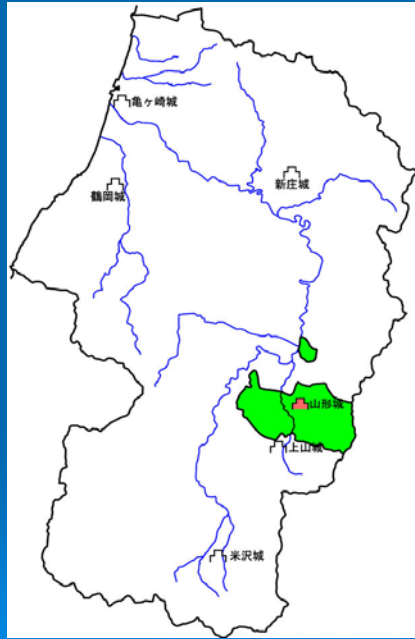
これ以後、山形藩は、左遷され
た大名が入部する藩となる

46

(結城)松平氏の領国

領地は現在の山形市周辺のみとなる。

この頃から飛び地が増える。



47

この時代の遺物【三の丸】



唐津



伊万里



京焼

三の丸の出土遺物の量が減少する
瀬戸美濃が姿を消す(流通の変化)

48

赤瓦の出現



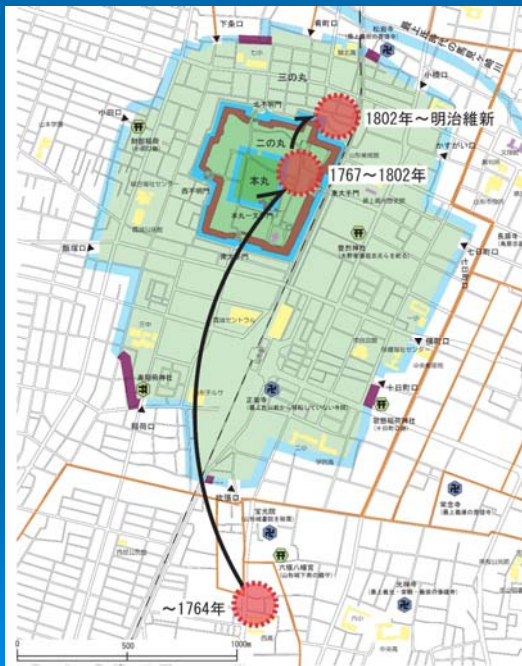
赤瓦
土のキメが細かく赤色の釉を塗った瓦

冬季の凍害を減少させるために導入された瓦



黒瓦
窯焼きの最後に蓋をして燻し、表面に煤を吸着させた瓦

49



瓦小屋

(大給)松平氏まで(~1764)
鉄砲町瓦小屋
第二次幕領期(1764~67)
鉄砲町瓦小屋が廃絶
秋元氏時代前半
(1767~1802)
二の丸で瓦を焼く
享和二年(1802)
二の丸瓦焼場焼失
秋元氏後半(1802~)
三の丸地内で瓦を焼く

50

V 江戸後期:1760年代～1860年代 第二次幕領期から水野氏の時代

- 1 藩領のさらなる縮小
石高5～6万石前後
- 2 藩領の分散
- 3 城郭の荒廃

51



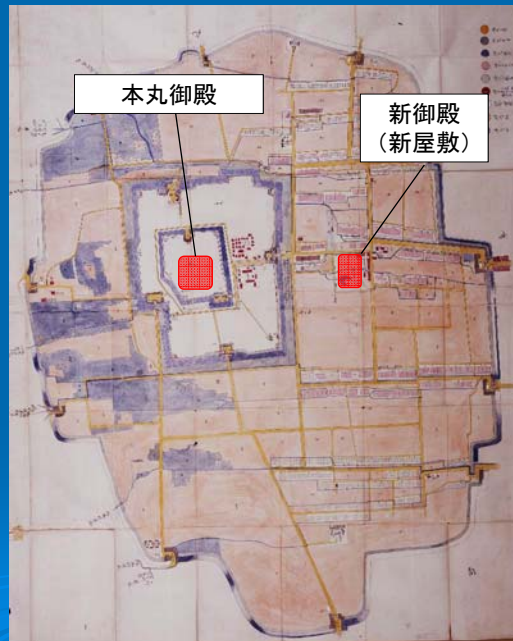
山形城付地約二万石のほかは小規模な飛び地で構成される

出羽のほか他国にも所領をもつ。
秋元氏 武蔵国・河内国
水野氏 近江国

水野氏の領国

52

江戸時代後期の 山形城



53

三の丸荒廃の理由

- 第二次幕領期に、幕府代官が三の丸の屋敷などを解体し、木材を入札にかけた。
- その後、藩主となった秋元氏は、家臣の屋敷や藩主の日常の住まいである三の丸新御殿(新屋敷)を急造して、移り住んだ。
- 本丸御殿は儀礼の空間に特化した。

54

本丸御殿と三の丸新御殿

➤ 双方を巧みに使い分けていた

・藩主への正月の挨拶、参勤の挨拶など

本丸御殿 専称寺・光禅寺等の有力寺院

三の丸新御殿 その他の寺院

55

VI 明治維新以後の山形城・藩

➤ 明治5年7月 山形城本丸・二の丸の土地・建物・樹木・石垣・兵器等が払下げられる。

➤ 明治9年8月 統一山形県成立。初代県令三島通庸

➤ 明治29年 陸軍歩兵第32連隊が山形城に入部。本丸堀土塁を埋め立てる。

56

最後に



慶長一分金(慶長6年頃～元禄8年(1601?～95))
4枚でちょうど1両分



二の丸良櫓(うしとらやぐら)の栗石上の盛土から出土
生産年代は江戸時代だが、出土した層位は近代
陸軍時代(明治29年以降)の痕跡か?

57